

学園での18年間とチャペルでのひととき

え じ り け い こ
大学教員 江尻 桂子

(1999年度就任・勤続18年)



1999年(平成11年)の4月に、茨城キリスト教学園に勤めはじめて、今年で18年になります。

前年の春にお茶の水女子大学で博士の学位を取得し、日本学術振興会特別研究員(ポスドク)を経て、シオン短期大学に専任講師として着任しました。その後、2004年に大学の生活科学部人間福祉学科(現・心理福祉学科)に移り、2011年からは文学部児童教育学科において教育・研究活動に携わっています。現在は、「保育の心理学」や「言語発達心理学」、「発達心理学特論」(大学院)などの授業を担当しています(詳細はホームページを参照。<http://www.icc.ac.jp/ejiri/index.html>)。

18年間の教員歴という、「ベテラン」のように思われるかもしれませんが、しかし実際には、研究・教育・学内運営、どれをとっても日々学ぶべきことがたくさんあり、今でも「仕事に慣れた」という感じはまったくありません。授業に関していえば、毎年のように初めて担当する授業があるため、講義ノートを新たにつくる作業が続いています。さらには、学生や保護者、社会が大学に求めることは刻々と変化していくため、それらに応じたかたちでの研究や教育、地域貢献が必要になります。

おそらく、こうした「新奇性」に満ちた仕事であることが、大学教員という仕事を長く続けていても「飽きない」理由の一つであり、また、「面白い」「楽しい」と思える理由なのだと思います。

自分が楽しいと思う仕事、やりがいがある仕事をして、それによって誰かの役に立つことができる。このことは、私の人生において最も大切なことの一つです。大学教員という、私にとって天職ともいえる仕事を、緑豊かで四季折々の花の咲くこの学園で、長くやらせていただいていたことに、心から感謝しています。

私自身はクリスチャンではありませんが、この学園の、キリスト教主義らしい気品のある雰囲気が好

きです。とりわけチャペル礼拝でのひと時は、私にとって大切なものです。聖書のことばや奨励の話に耳を傾け、また、チャペルで奏でられる音楽や賛美歌を聴きながら内省する時間は、私にとって、かけがえないものです。今後も、この学園の教職員や学生たち、また、この学園を守り、築いてきてくださった方たちへの感謝を忘れずに、教育や研究、そして地域貢献に携わっていきたいと思います。



江尻ゼミ恒例行事:勝田マラソン10キロの部(前列左から2番目が著者)